

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495500231	事業の開始年月日	平成25年8月1日
		指定年月日	平成25年8月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ川崎神木本町		
所在地	(〒216-0031) 神奈川県川崎市宮前区神木本町1-25-12		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成29年8月14日	評価結果 市町村受理日	平成29年12月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多摩丘陵の丘の上にあり、すぐ裏には、等覚院(つつじ寺)や近くに妙楽寺(あじさい寺)や散歩コースの東高根公園など、緑に囲まれた自然環境にとっても恵まれています。安らぎ・安心・快適を目標に、ご利用者の自然な笑顔が日々見られるような介護の実践に努めています。ユニット名の1F「つつじ」は、「川崎市の花」、2F「コスモス」は、「宮前区の花」から命名しており、地域に根差したホームを目指しています。近隣の小学校で運動会等が開催される際には、ご利用者と共に見学に赴いたり、児童の施設訪問も定期的にあります。今年の8月で開設から丸4年経過し、ご利用者の重度化も顕著になり、「最期は施設で迎えたい」とご家族からお話いただくことも多くなりました。ご利用者、ご家族のご意向に添えるよう、体制づくりに力を入れています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成29年8月25日	評価機関 評価決定日	平成29年9月19日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b>                  ◇職員とのチームワークによる理念の実践                  ・職員は理念である「豊かな感受性をもって、心あたたまるケアの提供」の実践に、チームを組んで支援している。理念の実践が、利用者には良い影響を与えていることを職員が理解し、職員間の協力体制ができており、チームとして役割を分担して利用者の支援に当たっている。                  ◇充実した医療支援体制と看取りの確立                  ・月2回の協力医の往診と医療連携による24時間対応、週1回の訪問看護師による健康管理、訪問歯科の治療体制など、利用者・家族が安心できる充実した医療支援体制が確保されている。                  ・入居時には、利用者が重度化した場合の対応方針を説明しており、本人や家族の意思を尊重して事業所で最期まで看取りを行う体制ができている。</p> <p><b>【事業所が工夫している点】</b>                  ◇効率的な職員配置                  ・利用者の介護度の上昇にとまない職員の負担が増す中で、効率的な支援活動ができるように、職員の知識、経験、職員同士の相性などを勘案したシフトを作成して、利用者中心の支援を行っている。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ川崎神木本町
ユニット名	つつじの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「川崎市の花」よりユニット名を「つつじの家」としました。「豊かな感受性をもって、心あたたまるケアを提供します」という理念を実現すべく日々努めています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開設時に作成した事業所独自の理念「豊かな感受性をもって、心あたたまるケアを提供します」との理念を事務室に掲示している。</li> <li>・理念の実践状況をスタッフ会議で確認し、利用者が日々穏やかに楽しく過ごせるようケアに取り組んでいる。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者と共に散歩に出かけた際等には進んで挨拶するよう心掛けています。近隣の小学校の職場見学受入を行っていたり、運動会等の学校行事には、ご利用者と共に見学させていただいています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の広報誌に、事業所の記事を掲載してもらい、地域に周知してもらうよう検討している。</li> <li>・利用者が、地元の小学校の運動会を見物したり、保育園児が事業所を訪問するなど、子どもたちと交流する機会を持てるようにしている。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や随時のご見学等を通して、認知症の方への理解をお願いしたり、支援の方法をお伝えしています。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回のペースで実施し、活動の評価や要望を受け、サービス向上に努めています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者家族、民生委員、自治会役員、地域包括支援センター職員が参加し、2か月ごとに開催している。</li> <li>・自治会への広報の仕方、地域ボランティアへのアプローチなどの参加者からの意見、要望を受け、運営に活かすように取り組んでいる。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の立ち上げの際、自治会会長に、会議の目的・意義や地域密着サービスの内容を伝え、ご理解とご協力をお願いしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険手続きなどで宮前区の高齢・障害支援課と連携している。</li> <li>・地域包括支援センターの職員とは定期的に情報交換を行い、事業所の活動状況を報告している。また同支援センター開催の会議にも出席し、情報を得ている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」についての研修を行っています。具体的にどのような行為が身体拘束になるのかを、スタッフが理解するようにします。また、やむを得ない場合の「切迫性」「非代替性」「一時性」を確認いたします。	・職員は研修で身体拘束をしないケアを学び、スタッフ会議で具体的な事例をもとに話し合い、意識の向上に努めている。 ・利用者の安全確保と不審者進入対策のため、家族の同意を得て玄関やフロア入口は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」について研修を実施し、高齢者虐待の5つの例を具体的に学び、スタッフ各々がご利用者の人格・尊厳を尊ぶことにより、自宅や事業所内での虐待が見過ごされないようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」に関する研修を行い理解を深めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用契約書、重要事項説明書をご利用者ご家族と読み合わせ、ご理解・ご納得いただけるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や運営推進会議にご家族代表としてご出席いただいた際、また日頃面会に来られた際に、ご意見、ご要望を伺い、運営に反映するようにしています。	・家族の意見・要望は、来訪時や運営推進会議、電話連絡などで聞き、運営に活かしている。 ・転倒事故の再発防止策をとる意見から、超低床ベッドやセンサーライトの導入など、利用者の症状やADLに応じて対応し、サービスの向上に反映させている。	・事業所の夏祭りやクリスマス会などの行事へ、家族に参加していただく機会を増やすなどして、より多くの利用者や家族の意見・要望を出してもらえるような工夫が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を定期的で開催しています。また、管理者はいつでもスタッフの意見や提案を聞くように心掛けています。	・管理者は、スタッフ会議や毎日の申し送りで職員の意見・要望を把握し、運営に反映している。 ・職員が集まりやすく、意見や提案も出やすいように、月に1回の全体スタッフ会議を、今月（8月）からユニットごとの開催に変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人の努力や頑張りやを公平に評価し、やりがいの持てる職場となるよう、心掛けています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の能力向上のため、面談し、長所を伸ばし、足りないところを努力目標にするなどを共有しています。介護技術や知識習得の研修に参加するよう、シフトの調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	会合や研修会があれば、積極的に出席できるよう、シフト調整や、会費負担を承認しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症のご利用者が、自らの意志で入居を決められることは、極めて稀なことであり、どなたでも「ここはどこだ」「どうして自分はここに居るんだ」と不安であることを十分に理解し、その方の生活歴等を把握した上で、傾聴しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接にて、新たにホームで生活することに対しての、要望や不安な点を収集し、実際の生活に反映させ、ご家族とまめに連絡を取り、ご本人の様子を報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当初はご本人・ご家族の要望される支援を優先しますが、ご利用者のADLや出来ること、出来ないことを見極め、必要な支援を追加しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはお手伝いさんにならないように意識し、ご利用者を据え膳、上げ膳にすることのないよう、出来ることは、見守りながら、していただき、一緒に生活している関係を築くようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り、面会に来ていただくようお願いし、その際にいただく要望を、実行することにより、ともに支えていく関係を構築しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の若い頃や思い出話をされている時は、話をささげるようなことはせず、傾聴しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の友人や茶道を一緒に習っていた人などの訪問があり、お茶などでもなしている。</li> <li>・利用者の自宅でセットしていた美容師が事業所を訪れ、髪染めを行うなど、利用者の馴染みの関係が途切れないよう支援している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者のテーブル席を隣同士にするように配慮を行っています。共通の話題になるようなネタを振り、みんなで話し合えるような雰囲気づくりをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了する際も他施設の紹介・相談・アドバイス等を行い、相談や支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ニーズをしっかりと捉えるため、本人・家族に聞き取り調査をしています。ご利用者が言葉にならない場合は、ご家族に聞き取りし、また、ご利用者の気持ちになって、検討しています。	・職員は、利用者との会話の機会を多く持つよう心がけ、散歩や入浴など、1対1で接する機会にはゆっくりと思いを聞くようにしている。 ・意向の把握が困難な場合は、利用者を長く支援してきた職員の意見を参考に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のヒヤリングなどで生活歴や生活環境を聞き取りし、またこれまでの利用サービスの内容を確認しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を理解、把握してその人らしい、その人の望む生活を送れるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際は、本人、家族からヒアリングし、その要望をもとにして、スタッフ参加のモニタリングを開催し、いろいろな意見、現状に即した介護計画を作成しています。	・利用者、家族の意向・要望を把握し、職員の意見と日常の生活状況を加味して介護計画を作成している。 ・6か月ごとに医療関係者や家族の意見を参考に計画を見直し、状況変化があれば速やかに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、業務日誌や個人別のケース記録を確認することにより、ご利用者の現状に即した介護の実践や、ケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の現状や要望により、それに応えられるよう、発想を柔軟にして、取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設からすぐ近くに県立の森林公園があり、体調を踏まえ、天気・気候野の良い日は、散歩に出かけて、気分転換していただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、かかりつけ医（主治医）の往診があります。ご利用者一人ひとりを丁寧に診察していただくことにより、家族の信頼も厚く、適切な医療を受けています。	・利用者や家族の同意を得て、全利用者が事業所の医療連携機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療、週1回の訪問看護を受けている。また、週1回、歯科の訪問診療がある。 ・眼科などの専門医の受診には、家族が付き添っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回（毎週月曜午前中）訪問いただいております。日常の中での医療面での不安があれば、適切なアドバイスをいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院関係者と連絡を取り、情報の共有に努めています。往診以外にも病状が不安定な方がいらっしゃる時には往診医より状態確認の電話をいただいたりと、良好な関係が築けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医と情報を共有し、ホームでできること、できないことを明確にして、ご本人・ご家族と話し合い、対応しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時に「重度化した場合の対応指針」を本人と家族に説明し、同意を得ている。</li> <li>・重度化した場合は、家族と医師、看護師、職員が連携し、方針を共有して支援する体制ができており、今年度1名の看取りを行った。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変時や事故発生時には、社内連絡と24時間対応の医療連携先への連絡をスタッフ全員が確認しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、消防署の指導を受け避難訓練を実施しています。地域の避難訓練にも参加して協力関係を取っています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署の指導・協力のもと、夜間想定を含め、年に2回の防災訓練を行っている。近隣住民の参加は、まだ得られていない。</li> <li>・非常災害用に3日分程度の食料、飲料水を備蓄している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議を利用して今後も地域との協力体制について話し合われることが期待されます。備蓄に関しても備蓄一覧表を作成し、消費期限や数量などを、定期的に管理することが期待されます。</li> </ul>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは、ご利用者一人ひとりを人生の先輩として敬い、丁寧で、心のこもった対応で接しています。	・利用者の呼び方は、名字のさんづけにする、記録は事務所内で行い外部に分からないようにするなど、スタッフ会議で確認している。 ・スタッフ会議時に「介護サービスと個人情報保護」のテーマで、管理者が30分研修を行った。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自由に、自身の思いや希望を表せるような雰囲気作りを心掛けています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、主体はご利用者にあることを、スタッフは理解し、業務優先になることなく、ご利用者のペース、希望に沿って支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のパジャマから更衣する際は何を着たいのかを、本人に確認したり、モーニングケアの際はブラシを渡して、髪をとかしていただいたり、男性利用者には、髭剃りを渡して髭を剃っていただく等支援しています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食席を工夫したり、刻みやトロミを必要に応じて対応しています。食事の準備、後片付けは、できることをお願いして、快く引き受けていただけるようにしています。	・利用者に好みの聞いて、食事レクの折、焼きそばや、おやつにフルーツポンチを作った。誕生会のケーキには、利用者の好きなものを提供している。 ・手伝いのできる利用者には、食前のテーブル拭きをお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	所定の用紙に食事量・水分量を記入し、一日一日の経過が分かるようにしています。水分量が不足気味のご利用者には、緑茶だけでなく、ジュース等甘味な飲み物を用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、ご自分でできる方には、声掛けで促し、介助の必要な方には声掛け後、洗面台へお連れし、口腔ケアをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツや尿取りパットに頼るだけでなく、ご本人の意思表示や、そういった素振りが見られたときには、今後、尿意・便意を残していくためにも、すぐに対応しています。	・日々の排泄状況を「水分、排泄、排便チェック表」に記録し、利用者の排泄パターンを把握して、トイレに誘導している。トイレへは「私と一緒にいきましょう」など、何気ない言葉で誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に毎朝ヨーグルトを提供しています。また水分摂取を都度促しています。日々の排便の有無を排泄チェック表で確認し、主治医から指示を受けている方については便秘薬や下剤にて対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入所されてからの生活での楽しみは、食事と入浴であることを、スタッフは理解し、喜んでいただける入浴となるよう支援しています。	・入浴は午前中に、週に2～3回行っている。入浴中は職員と1対1で話したり、歌を歌ったりして寛いでもらっている。季節の菖蒲湯、柚子湯などで季節を感じる工夫をしている。 ・希望する利用者には、同性介助をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良質な睡眠が確保されますよう、入床時刻や夜間トイレのタイミングなどを把握し、またその時々状況に応じて入眠、休息を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは利用者一人ひとりの既往歴や薬の効能を理解し、服薬の支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、能力に応じた役割、楽しみ事（洗たくものたたみ、食器洗いなど）を、スタッフから押しつけられるのではなく、一緒にするようお願いしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩は天気状況を見ながら、お誘いしています。ご家族にご協力いただいて、外出、外食をお願いしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節毎に、バラ園や紫陽花寺に車で出かけている。その日のシフトを調整し外出できるための職員を確保している。</li> <li>・天気の良い日には、10～15分近所を散歩したり、外出のできない利用者は玄関先で外気浴をしている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解していますが、現実として、用心して隠したつもりが、隠した場所を忘れ、物取られ妄想に発展しかねませんので、基本的に現金の所持はしないようにご家族をお願いしています。希望があれば購入して渡しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人との連絡はご要望があれば、その要望に沿うよう、支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事や憩いの場となるリビングでは、ゆったりとしたリズムで生活が送れますよう、配慮しています。季節ごとに装飾も工夫しています。	・リビングには、空気清浄器や加湿器を設置し、室内温度は25～27℃、湿度は50%以上を管理目標としている。 ・リビングの壁面に行事の写真を掲示したり、夏祭りの飾り付けやひまわりの生花を飾って季節感の演出をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の席順は気の合う方々を組み合わせたりと、会話が弾むようにしたり、また一人静かに時を過ごせるような雰囲気作りもしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、好みの服や身の回りの物を、入居の際や入所後もご家族にお願いして、お持ちいただき、ご本人に心地よくお過ごしいただけるようにしています。	・居室の壁には家族の写真や、孫から来た手紙などを張っている。整理ダンスやチェストなど利用者の馴染みの物を持ち込んでいる。 ・清掃は居室担当職員が行っているが、居室内のゴミ箱の整理を行っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計の段階から、床をフローリングにするのではなく、じゅうたんにして、転倒時の衝撃を少しでも抑えられるよう工夫をしています。歩行介助をすることにより、歩くことへのアプローチをしています。		

事業所名	ミモザ川崎神木本町
ユニット名	コスモスの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「宮前区の花」よりユニット名を「コスモスの家」としました。「豊かな感受性をもって、心あたたまるケアを提供します」という理念を実現すべく日々努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者と共に散歩に出かけた際には進んで挨拶するよう心掛けています。近隣の小学校の職場見学受入を行っていたり、運動会等の学校行事には、ご利用者と共に見学させていただいています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や随時のご見学等を通して、認知症の方への理解をお願いしたり、支援の方法をお伝えしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回のペースで実施し、活動の評価や要望を受け、サービス向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の立ち上げの際、自治会会長に、会議の目的・意義や地域密着サービスの内容を伝え、ご理解とご協力をお願いしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」についての研修を行っています。具体的にどのような行為が身体拘束になるのかを、スタッフが理解するようにします。また、やむを得ない場合の「切迫性」「非代替性」「一時性」を確認いたします。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」について研修を実施し、高齢者虐待の5つの例を具体的に学び、スタッフ各々がご利用者の人格・尊厳を尊ぶことにより、自宅や事業所内での虐待が見過ごされないようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」に関する研修を行い理解を深めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用契約書、重要事項説明書を、ご利用者ご家族と読み合わせ、ご理解・ご納得いただけるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や運営推進会議にご家族代表としてご出席いただいた際、また日頃面会に来られた際に、ご意見、ご要望を伺い、運営に反映するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を定期的を開催しています。また、管理者はいつでもスタッフの意見や提案を聞くように心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人の努力や頑張りを公平に評価し、やりがいの持てる職場となるよう、心掛けています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の能力向上のため、面談し、長所を伸ばし、足りないところを努力目標にするなどを共有しています。介護技術や知識習得の研修に参加するよう、シフトの調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	会合や研修会があれば、積極的に出席できるよう、シフト調整や、会費負担を承認しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症のご利用者が、自らの意志で入居を決められることは、極めて稀なことであり、どなたでも「ここはどこだ」「どうして自分はここに居るんだ」と不安であることを十分に理解し、その方の生活歴等を把握した上で、傾聴しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接にて、新たにホームで生活することに対しての、要望や不安な点を収集し、実際の生活に反映させ、ご家族とまめに連絡を取り、ご本人の様子を報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当初はご本人・ご家族の要望される支援を優先しますが、ご利用者のADLや出来ること、出来ないことを見極め、必要な支援を追加しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはお手伝いさんにならないように意識し、ご利用者を据え膳、上げ膳にすることのないよう、出来ることは、見守りながら、していただき、一緒に生活している関係を築くようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り、面会に来ていただくようお願いし、その際にいただく要望を、実行することにより、ともに支えていく関係を構築しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご利用者の若い頃や思い出話をされている時は、話をさえぎるようなことはせず、傾聴しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者のテーブル席を隣同士にするように配慮を行っています。共通の話題になるようなネタを振り、みんなで話し合えるような雰囲気づくりをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了する際も他施設の紹介・相談・アドバイス等を行い、相談や支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ニーズをしっかりと捉えるため、本人・家族に聞き取り調査をしています。ご利用者が言葉にならない場合は、ご家族に聞き取りし、また、ご利用者の気持ちになって、検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のヒヤリングなどで生活歴や生活環境を聞き取りし、またこれまでの利用サービスの内容を確認しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を理解、把握してその人らしい、その人の望む生活を送れるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際は、本人、家族からヒアリングし、その要望をもとにして、スタッフ参加のモニタリングを開催し、いろいろな意見、現状に即した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、業務日誌や個人別のケース記録を確認することにより、ご利用者の現状に即した介護の実践や、ケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の現状や要望により、それに応えられるよう、発想を柔軟にして、取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設からすぐ近くに県立の森林公園があり、体調を踏まえ、天気・気候野の良い日は、散歩に出かけて、気分転換していただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、かかりつけ医（主治医）の往診があります。ご利用者一人ひとりを丁寧に診察していただくことにより、家族の信頼も厚く、適切な医療を受けられています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回（毎週月曜午前中）訪問いただいております。日常の中での医療面での不安があれば、適切なアドバイスをいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院関係者と連絡を取り、情報の共有に努めています。往診以外にも病状が不安定な方がいらっしゃる時には往診医より状態確認の電話をいただいたり、良好な関係が築けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医と情報を共有し、ホームでできること、できないことを明確にして、ご本人・ご家族と話し合い、対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変時や事故発生時には、社内連絡と24時間対応の医療連携先への連絡をスタッフ全員が確認しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、消防署の指導を受け避難訓練を実施しています。地域の避難訓練にも参加して協力関係を取っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは、ご利用者一人ひとりを人生の先輩として敬い、丁寧で、心のこもった対応で接しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自由に、自身の思いや希望を表せるような雰囲気作りを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、主体はご利用者であることを、スタッフは理解し、業務優先になることなく、ご利用者のペース、希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のパジャマから更衣する際は何を着たいのかを、本人に確認したり、モーニングケアの際はブラシを渡して、髪をとかしていただいたり、男性利用者には、髭剃りを渡して髭を剃っていただく等支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食席を工夫したり、刻みやトロミを必要に応じて対応しています。食事の準備、後片付けは、できることをお願いして、快く引き受けていただけるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	所定の用紙に食事量・水分量を記入し、一日一日の経過が分かるようにしています。水分量が不足気味のご利用者には、緑茶だけでなく、ジュース等甘味な飲み物を用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、ご自分でできる方には、声掛けで促し、介助の必要な方には声掛け後、洗面台へお連れし、口腔ケアをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツや尿取りパットに頼るだけでなく、ご本人の意思表示や、そういった素振りが見られたときには、今後、尿意・便意を残していくためにも、すぐに対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に毎朝ヨーグルトを提供しています。また水分摂取を都度促しています。日々の排便の有無を排泄チェック表で確認し、主治医から指示を受けている方については便秘薬や下剤にて対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入所されてからの生活での楽しみは、食事と入浴であることを、スタッフは理解し、喜んでいただける入浴となるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良質な睡眠が確保されますよう、入床時刻や夜間トイレのタイミングなどを把握し、またその時々状況に応じて入眠、休息を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは利用者一人ひとりの既往歴や薬の効能を理解し、服薬の支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、能力に応じた役割、楽しみ事（洗たくものたたみ、食器洗いなど）を、スタッフから押しつけられるのではなく、一緒にするようお願いしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩は天気の状態を見ながら、お誘いしています。ご家族にご協力いただいて、外出、外食をお願いしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解していますが、現実として、用心して隠したつもりが、隠した場所を忘れ、物取られ妄想に発展しかねませんので、基本的に現金の所持はしないようにご家族にお願いしています。希望があれば購入して渡しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人との連絡はご要望があれば、その要望に沿うよう、支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事や憩いの場となるリビングでは、ゆったりとしたリズムで生活が送れますよう、配慮しています。季節ごとに装飾も工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の席順は気の合う方々を組み合わせたりと、会話が弾むようにしたり、また一人静かに時を過ごせるような雰囲気作りもしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、好みの服や身の回りの物を、入居の際や入所後もご家族にお願いして、お持ちいただき、ご本人に心地よくお過ごしいただけるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計の段階から、床をフローリングにするのではなく、じゅうたんにして、転倒時の衝撃を少しでも抑えられるよう工夫をしています。歩行介助をすることにより、歩くことへのアプローチをしています。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ川崎神木本町

作成日 平成29年12月12日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	事業所の夏祭りやクリスマス会などの行事へ、家族に参加いただく機会を増やすなどして、より多くの利用者や家族の意見・要望を出してもらえるような工夫が期待されます。	より多くのご利用者やご家族のご意見・ご要望を伺うことができる	ご家族を招いての季節的なイベントや家族会などを開催する	平成30年6月
2	35	運営推進会議を利用して今後も地域との協力体制について話し合われることが期待されます。	災害時に、地域の協力を得ることができる	運営推進会議で協力体制についての話し合いを継続していく	平成30年6月
3	35	備蓄に関しても備蓄一覧表を作成し、消費期限や数量などを、定期的に管理することが期待されます。	適切に備蓄を管理することができる	備蓄一覧表を作成し、定期的に管理する	平成29年12月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。